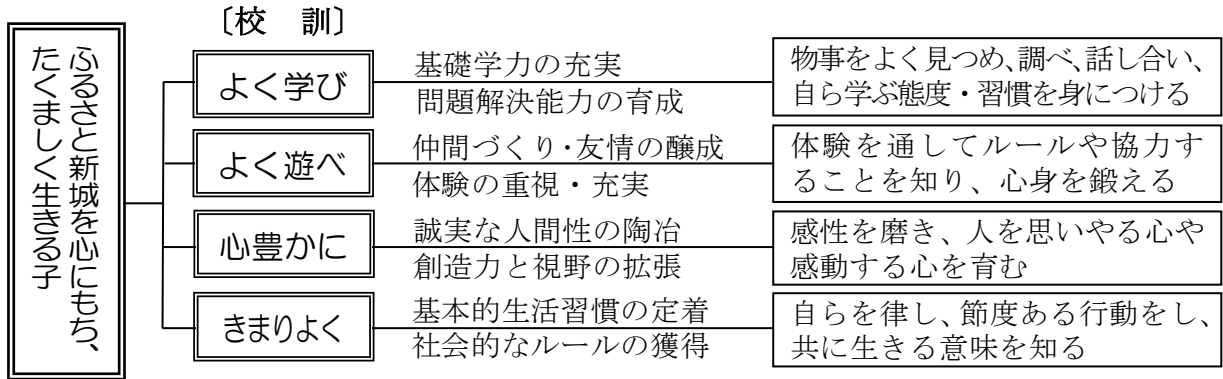


令和5年度学校評価報告書

新城市立新城小学校

1 目標と学校評価の概要

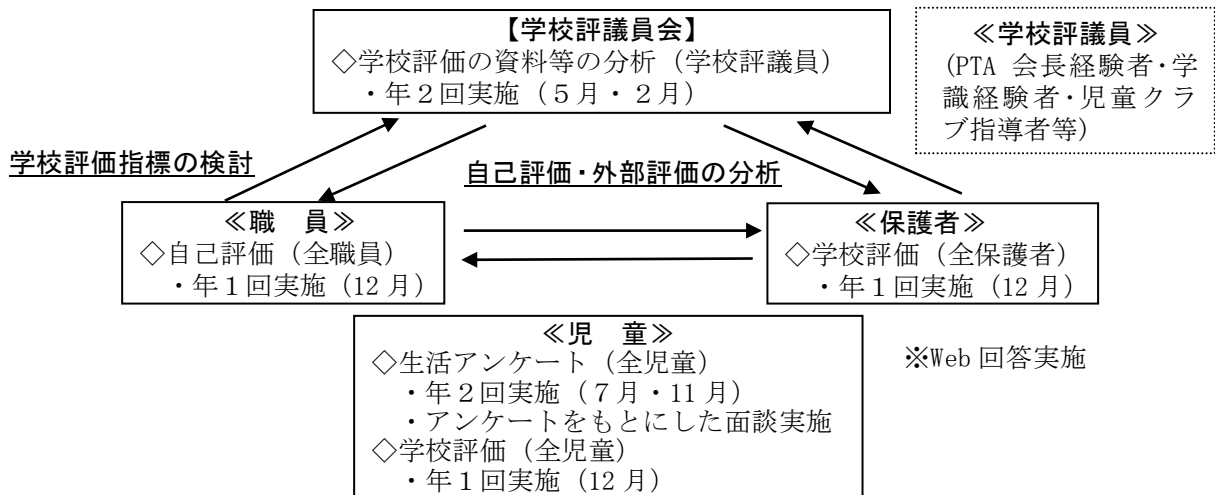
教育目標を「ふるさと新城を心にもち、たくましく生きる子どもを育てる」と定め、校訓「よく学び・よく遊べ・心豊かに・きまりよく」を合言葉に、子ども理解に努め、家庭や地域と連携し、子どもが「学校へ来るのが楽しいな」という学校を志向する。



【本年度の重点努力目標】

- ① 子どもの側に立ち、子どもの内側を読み解くことに努める（記録と分析）。
- ② 学校安全に万全を期し、交通事故や災害時の備え、防犯等に努める（危機管理に関する各マニュアルの整理）。
- ③ 研究的に実践を進めるとともに、授業力向上プロジェクト「みがく」や各種研究・研修会への参加を促す。
- ④ 授業の周辺事項（朝の会、学習規律、学習環境）や、よい生活習慣（朝のあいさつ、時間を守る、黙動清掃など）を整える。
- ⑤ 特別な支援が必要な子どもに対して、保護者や他機関と連携しながら計画的且つきめ細かな指導を行う。（年間研修計画の整備）
- ⑥ 不登校傾向の子どもや家庭に対して、他機関と連携してはたらきかけ登校を促すとともに、新たな一人を出さないよう子どもの小さな変化を共有する体制をつくる。
- ⑦ 日本語指導を必要とする子どもに対して、きめ細かな対応を行う。

【学校評価組織】



2 学校教育活動 ～重点努力目標の一例～

(1) 重点努力目標② 防災・減災に向けた事故や災害への備え

① 事故や災害への備え

- ・避難訓練（年間に6回 火災、地震、不審者）
- ・通学に関わる安全指導（通学団会での危険箇所確認、1・3年生交通安全教室）
- ・通学に関わる安全管理（下校指導、通学路点検、こども110番の家確認）
- ・事故対応研修（応急手当・搬送法研修、AED研修、エピペン研修）

② 安全にかかわる講習・研修等への参加

- ・5月26日（金） 防犯教室指導者講習会への参加
- ・2月2日（金） 愛知県学校安全総合支援事業成果発表会への参加

③ 成果

避難訓練や研修について、昨年度からの反省を踏まえ改善を進めるとともに、通学や学校生活における日常の指導を継続できた。また、危機管理マニュアルの整備に取り掛かっている。安全管理に関わる研修を通して、発災時に活用できる内容・紙面構成になるよう目的を明確にして作成を進めることができた。

(2) 重点努力目標③ 授業力向上に向けた校内授業研修

令和2年度までの研究「響きあいながら考えを深める子ども」を引継ぎ、他者との協働によって得られる学びや解決に向かう過程で得られる力の獲得に視点をあて、話し合うことに重点をおいた学習展開についての研究を行うこととした。

① 研究主題 他者とかかわり合って問題を解決していく子の育成

- ・4月10日（月） 昨年度までの研究について教務主任から説明
- ・10月18日（火） 深見幸寛教諭 自立活動「そらのおんがえし」
講師 愛知教育大学附属特別支援学校 田尻智久 教諭
- ・10月19日（木） 山本梢教諭 1年国語科「あきのむしくん、みいつけた」
講師 愛知教育大学附属中学校 今泉匡博 教諭
- ・11月17日（木） 鈴木梓穂教諭 6年国語科「話し合って考えよう」
鈴木麻穂教諭 4年国語科「ごんぎつね」
講師 四天王寺大学 原田三朗 准教授

3 学校評価の結果と分析

(1) 児童による学校評価

・10項目の自己評価、5項目の学校評価を実施

A:思う
B:だいたい思う
C:あまり思わない
D:思わない
(数字単位は%)

番号	質 問	年度	A	B	C	D
1	学校は楽しい。	R5	65	26	6	3
		R4	65	25	8	2
2	担任の先生の授業はわかりやすい。	R5	74	23	3	0
		R4	72	23	3	2
3	担任の先生は、わからないところをわかるまで教えてくれる。	R5	73	25	2	0
		R4	64	29	4	2
4	担任の先生は、努力したことを認めてくれる。	R5	69	27	3	1
		R4	67	24	7	3
5	担任の先生は、一人一人の子を大切にしている。	R5	80	18	1	1
		R4	73	19	5	3

質問2では、昨年度同様7割以上の児童が、授業が分かりやすいととらえていることが分かる。また、質問3は昨年度よりも「思う」の回答が増えている。児童への個別の支援や指導の工夫の効果が表れていると考えられる。また、質問5では「思う」と回答する児童が8割に達していることから、生活面を含めた児童への支援が学習の成果にも表れていると考えられる。教師が分かりやすく、または個別の支援を行う授業とともに、児童が自分なりの課題ややりたいことをもち、仲間との協働によって解決する喜びを味わえる授業づくりを志向していきたい。

(2) 保護者による学校評価

A:思う
B:だいたい思う
C:あまり思わない
D:思わない
(数字単位は%)

・10項目の学校評価、自由記述を実施

番号	質問	年度	A	B	C	D
1	お子さんは、学校生活を楽しんでいると思いますか。	R5	49	42	5	1
		R4	45	48	4	1
2	学校は、授業をとおして、基礎学力が身につくように指導していると思いますか。	R5	43	46	7	1
		R4	27	62	5	1
3	学校は、子どもが仲間とのふれあいをとおして、豊かな心が育まれるように指導していると思いますか。	R5	36	51	7	0
		R4	26	56	9	1
4	学校は、「あいさつ先手」「はきものをそろえる」など、子どもが基本的な生活習慣を身につくように指導していると思いますか。	R5	29	49	16	3
		R4	23	50	19	5
5	学校は、子どもが健康的な生活ができるように指導するとともに、子どもの体力の向上にも努めていると思いますか。	R5	33	49	11	1
		R4	32	52	11	1
6	学校は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に適切に取り組みながら、子どもの成長につながるよう教育活動を工夫していると思いますか。	R5	33	48	13	1
		R4	28	50	13	4
7	学校は、学校公開や通信、ホームページなどを利用し、情報発信に努めていると思いますか。	R5	30	52	7	1
		R4	23	55	17	2
8	学校は、保護者や地域と連携しながら、子どもの教育に携わっていると思いますか。	R5	22	52	12	4
		R4	18	55	17	2
9	先生は、子どもたちが意欲的に学べるように、指導方法を工夫していると思いますか。	R5	32	48	10	1
		R4	26	55	16	4
10	先生は、子ども一人一人のことをよく理解した上で、適切な指導をしていると思いますか。	R5	26	48	11	2
		R4	21	55	9	4

質問2、質問9の2点に昨年度からの改善がみられた。児童アンケート質問12は7割の児童が「思う」と答えていることから学校の取組が家庭にも概ね伝わっていると考えられる。

質問7、質問8は昨年度に比べ改善が見られた。新型コロナ感染症の5類移行を受け、児童の活動や保護者の参観・参加の拡大を進めてきたこと、HP、通信、PTA委員会などを通じて情報発信を行ってきた効果が表れてきているととらえている。しかし、質問8については「思う」が約2割にとどまった。保護者意見からは、情報発信の頻度を上げてほしいとの要望もあることから、これまでの活動の見直しを進めたい。

(3) 職員による学校評価

A:思う
B:だいたい思う
C:あまり思わない
D:思わない
(数字単位は%)

・14項目の自己評価、9項目の学校評価を実施

番号	質問	年度	A	B	C	D
6	一人一人の子どものことをよく理解したうえで、適切な学習指導を行った。	R5	20	80	0	0
		R4	0	79	17	4
7	子どもにとって身近なものを教材化し、子どもの問題意識や思いや考えを大切にしたい問題解決的な授業に取り組むことができた。	R5	15	60	25	0
		R4	4	50	42	4
16	子どもにとって有意義な学校行事が位置づけられている。	R5	10	65	25	0
		R4	13	83	4	0
17	職員会議は、議題が精選され、効率よく行われている。	R5	15	55	30	0
		R4	21	71	8	0
18	現職研修や授業研究は、教師の力量向上のために有効的に機能している。	R5	0	70	30	0
		R4	17	57	13	4
19	職務を遂行するうえで、無理のない日課や行事予定が組まれている。	R5	0	65	25	10
		R4	8	71	21	0
21	教育目標「ふるさと新城を心にもち、未来をたくましく生きる子どもを育てる」の実現に迫るために適切な学校運営がなされている。	R5	5	70	20	5
		R4	17	71	8	0

教員の力量向上に関して、質問6、7では教員が子どもの実態をとらえ、自ら問題解決に迎えるよう授業実践に取り組んだことがうかがえる。一方、質問18では「あまり思わない」との回答が3割に上った。研究および研修の年間を見通した目標やねらいを軸に、成果や課題の共有と実践のPDCAサイクルを着実に実践していきたい。

学校運営に関して、質問17、質問19では、約3割の職員が「あまり思わない」と回答している。学校運営に関わる会議の持ち方の見直し、行事と日々の活動の重なりなどで、児童や職員に負担とならないよう諸活動を関連付けた余裕のある運営を行う必要がある。

質問21では、2割の職員が「あまり思わない」と答えている。関連して質問16では、「あまり思わない」が昨年度に比べ約20ポイント増加している。学校経営案をもとにした教育活動を計画し、明確な目標のもと、育てたい児童の姿を共有しながら運営を進めていきたい。

4 成果と課題

本年度は児童が安全安心に学ぶことができる環境の整備を土台に、児童の思いを汲みながら「わかる、楽しい」と児童が思える授業を行うことを中心とした学校運営に取り組んだ。学校評価アンケートの結果からも、児童、保護者ともにその成果を感じ取っているととらえている。今後も児童が「学校が楽しい」と思えることを踏まえ「学びが楽しい」と思える学校づくりを目指したい。そのためにも、学校運営を改善する意識を常にもち、学校と保護者の連携、職員間の連携、関係機関との連携を図り円滑に活動を進められる環境の整備、児童が自ら学ぶことができた実感するとともに協働を通して学ぶ楽しさを味わえる指導の改善に取り組んでいきたい。